|  |
| --- |
| **平成23年大阪府産業連関表について**  　　　　　　　　　　　　　　　大阪府総務部統計課 情報分析グループ  　《 詳細は大阪府ホームページに掲載しています。<http://www.pref.osaka.lg.jp/toukei/sanren/index.html> 》 |

統計トピックス

このたび、「平成23年（2011年）大阪府産業連関表（基本表）」を公表（平成28年10月）しましたので、概要を報告します。

**１　大阪府産業連関表とは**

　大阪府産業連関表は、大阪府内で取引された財やサービスについて、産業相互間の取引関係を一覧表にまとめたものです。大阪府では、昭和30年（1955年）以来、５年に一度基本表を作成しています。

**２　大阪府産業連関表から見た大阪経済の概要**

　下図は、実際の大阪府産業連関表を簡略化して表したもので、タテ方向は供給、ヨコ方向は需要を示しています。これによると、総供給（Ｂ）は85兆3846億円、府内生産額（Ｃ）は64兆6766億円、輸移入（Ｆ）は20兆7081億円となっています。総需要（Ａ）は総供給（Ｂ）と等しく、中間需要（Ｄ）は28兆1634億円、最終需要（Ｇ）は57兆2212億円となっています。

**平成23年大阪府産業連関表の概要**



※用語説明は後述しています。

※簡略化のため小数点以下の位を四捨五入しています。

中 間 需 要

中 間 投 入

農林水産業

鉱業

製造業

・

・

・

・

・

・

製造業

鉱業

農林水産業

下図は、大阪府産業連関表から見た財・サービスの流れを示しています。供給で始まる上から見ていくと、中間投入（Ｄ）と粗付加価値（Ｅ）の合計が府内生産額（Ｃ）となります。府内生産額（Ｃ）に輸移入（Ｆ）を加えたものが総供給（Ｂ）となり、総供給（Ｂ）は同額の総需要（Ａ）となります。

総需要（Ａ）は中間需要と最終需要（Ｇ）からなり、中間需要は同額の供給項目である中間投入（Ｄ）となります。最終需要（Ｇ）は、府内最終需要（Ｈ）と輸移出（Ｉ）からなります。

**大阪府産業連関表から見た財・サービスの流れ**



（注）１　 「財」は農林水産業や製造業など、「サービス」は商業（卸売・小売）や金融・保険などの合計です。

２　 「消費」は「家計外消費支出」「民間消費支出」及び「一般政府消費支出」の合計、「投資」は「府内総固定資本形成」及び「在庫純増」の合計です。なお、「府内最終需要（Ｈ）」には、「消費」及び「投資」のほか、「調整項」の額を含んでいます。

３ 四捨五入していることから、内訳は必ずしも合計と一致しません。

４　 （　）は構成比を示しています。

**３　大阪府産業連関表から見た大阪経済の特徴**

平成23年大阪府産業連関表によると、府内生産額は64兆6766億円で、平成17年に比べて6.1％の減少となりました。全国シェアは6.9％となり、平成17年の7.1％から0.2ポイント下降しています。

（％）

-6.1

64.6766

68.8905

　 平成７　　 　12 17 23年

6.9

7.1

　平成７　　　 12 17 23年

（％）

（兆円）



80

60

40

20

0

40

30

20

10

0

-10

9.0

8.5

8.0

7.5

7.0

6.5



大阪府の産業で最も大きな比率を占める第３次産業の構成比率は、平成17年の71.2％から72.0％（全国62.2％）に微増しました。大阪府は全国に比べ第３次産業の比率が高く、第２次産業の比率が低くなっています。

**府内生産額の産業構成**



　粗付加価値額は36兆5132億円で、平成17年から6.2％減少したものの、粗付加価値率（府内生産額に占める粗付加価値額の構成比）は56.5％と横ばいで推移しました。また、全国の50.8％を上回っています。

**粗付加価値率の推移**

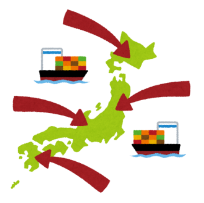
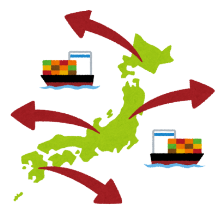
**（参考１）産業連関表の見方**

産業連関表をタテ方向に見ると、どのような材料で生産したか（供給）が分かります。下図を例にすると、「乗用車」を生産するためには「タイヤ」が40億円、「鉄」が110億円、さらに「賃金」が30億円、「利潤」が20億円必要であることが分かり、その合計「生産額」は200億円であることが分かります。

産業連関表をヨコ方向に見ると、どこへ販売したか（需要）が分かります。下図を例にすると、輸入も含めた合計「生産額」200億円分の「乗用車」の販売先は、「家計」が80億円、「輸出」が130億円であることが分かります。

**イメージ図（事例）**

**（参考２）産業連関表から分かる財・サービスの流れ（製造業の場合）**



産業連関表で

表してみると…

【ヨコ】どこへ販売したか

【タテ】どのような材料で生産したか

家計 **80**

タイヤ **40**

鉄 **110**

輸入 **10**

**乗用車200**（賃金 **30**、利潤 **20**）

輸出 **130**

（単位：億円）



輸入 **10**

タイヤ **40**

鉄 **110**

産業連関表から分かる財・サービスの流れを、製造業を例に表すと、下図のようになります。

大阪府内の製造業では、15兆円規模の製品を生産するための材料や部品、燃料費などの購入費用が10兆円、雇用者の賃金、企業の利益などが５兆円となります。また、府内での生産15兆円と、府への輸入・移入13兆円を合計した28兆円が総供給（供給の合計）となります。

総供給のうち府内の各産業で材料等として購入されたものが10兆円、府内の一般家庭等で購入されたり、府外へ輸出・移出されたりしたものが18兆円で、それらの合計28兆円が総需要（需要の合計）となります。

産業連関表は、需要に基づき各産業の生産活動（供給）は行われる、という考え方により作成されているため、総需要と総供給は一致します。



**■用語説明■**

　本文中で使用しました用語の説明は以下のとおりです。

